

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 6月 30日

事業所名 しまじろー

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	1		仕切りで集中部屋を作っている	パニックになった児童やクールダウンの個室があればより対応の幅が広がり、利用者さんも安心できると検討中
	2 職員の配置数は適切である	14			資格持ちのスタッフで専門的な支援を取り入れている	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	14				
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	2		朝礼時に全スタッフが発言できる環境を整えている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	2		集計後、全スタッフで確認し、話し合う場を設けている	集計後に話し合う場は設けているが、今以上に定期的に児童の支援について話し合う場を増やしていく
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	4		ホームページに掲載している	新入社員はホームページへの掲載をしらないため、研修等にも取り入れていく
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	4		第三者委員会を設置している	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14			定期的な社内研修を行ない、社外研修への参加も促している	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	2			アセスメント結果を全スタッフで確認しているが休みのスタッフには口頭説明のみになるので他の職員の意見等も聞ける場を改めて設ける
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	2			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	14			全スタッフが様々な案を出し合い、“楽しく学べる”イベントを企画している	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	1		イベントごとにリーダーを立てて、個々の思いも取り入れながらイベントを考えている	今以上に利用者さんが“楽しく学べる”イベントを企画していきたい
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12	2			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11	3			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14			朝礼時に全スタッフで情報共有している	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	2		話し合う場を設けているのと、社内独自の個々の記録に特記事項を記録している	送迎から戻っていないスタッフは当日の話し合いに参加できていないので翌日の朝礼時や口頭説明で抜けのない状況共有に努めている
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	14				
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	14				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	10	4			新入社員はガイドラインを知らない職員も居るため研修に取り入れていく	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	14			サービス管理責任者 だけではなく、現場のス タッフも出席できるよう 調整している	今後も児童に関わる職員が会議に 参加できるよう調整していく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	12	2		会議を学校の先生も 出席していただけるよう 相談支援員に依頼する こともある	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている		14		現在受け入れなし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	12	2		様子をまとめた用紙を 保護者さんに渡して情 報共有を図っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	10	4			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	8	6			研修に参加できるよう勤務を調整し、 職員のスキルアップに努める
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	5	9		コロナが落ち着いたら 考えたい	コロナが落ち着いたら企画していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	5	9			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	10	4		送迎時にどのスタッ フでも対応できるよう情報共 有を行ない、スタッフのスキ ルアップに努めている	
保護者への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	11	3			職員のスキルアップが必要
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	8	6			全職員が把握し、説明できるようリーダーが指導していく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	11	3		問合せや相談があつた 際には情報共有し、場合 によってはリーダーが保護者 さんと直接話をする機会を 設けている	継続して“ホウ・レン・ソウ”を徹底していく
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	5	9		コロナが落ち着いたら 参観や茶話会を再開予 定	参観や茶話会の再開を検討
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があつた場合に迅速かつ適 切に対応している	13	1		すぐにサービス管理 責任者で対応できる体 制を整えている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	14			毎月カレンダーにて イベントを告知し、ス ムーズな利用を促して いる	
	35	個人情報に十分注意している	14				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	12	2			絵カードやタイムタイマー等、必要に応じて 個々に対応している
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に関わられた事業運営を図っている	5	9			コロナが落ち着いたら増やしていく 作業所の無人販売は好評である

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時 等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	4		常に確認できる場所に保管し、研修等で確認する機会を設けている	研修のみでなく、職員に周知する機会を定期的に設け、常に対応できる体制を強化する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14			定期的に訓練を行なっている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	14			定期的に訓練を行なっている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	4			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	2			調理員と現場職員による連携を継続して取り組む
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	1		社内研修や朝礼時に全スタッフで振り返り、再発防止に努めている	